

市場の迷信・噂・格言

株の格言

- ・文殊でも備えの立たぬ商いは、高下の変あれば破るる
- ・利食い千人力
- ・名人、天井売らず底買わず
- ・押し目待ちに押し目なし
- ・山高ければ谷深し etc.....

文殊でも備えの立たぬ商いは、高下の変あれば破るる

- 知恵深い文殊菩薩でも、思惑はずれに備えて、資金的な余裕を持っていなければもろいということ
- 備えあれば憂いなし

利食い千人力

- 株は、買うときと同じように、売るタイミングもむずかしい。これは、利食いは千人の味方を得たのと同じ、という有名な格言

名人、天井売らず底買わず

- 十分な経験を積んだ人でも、最高値、最安値を的中させることはできない
- 天井で売ろうなどと思っていると利食いのチャンスを逃す
- 底値で買おうとすると、投資のチャンスを逃がす
- 天井では売れない、底値では買えない、と割り切って投資

押し目待ちに押し目なし

- 上げ相場で、一時的に株価が下がったところで買うことを押し目買いという
- その押し目に狙いを定めて買うチャンスを待っていても、相場が力強ければ強いほど、下がらないことをいう。とくに上げ相場で、それも市場エネルギーが強く、勢いのよいときほど、思いどおりの値で株は買えない、ということ、この格言は教えている

損して休むは上の上

- 損をしたあと、なんとか取り返そうという気持ちになるのは勝負事と同じで、ついあせって、他の株を仕掛けることになる
- 自信があろうとなかろうと、取り返したい一心になったときは、はやる心を抑えねばならない。買うチャンスはいつでもある

二日新甫(しんぽ)は荒れる

- 月初めの立会が、一日が休みで二日から始まると、その月の相場は荒れるというジンクス
- 分析のための尺度
- 月の最高値と最安値の差
- 毎月の値を平均する

二日新甫(しんぽ)は荒れる

- 分析期間: 1997/1~2007/6
- 全期間の平均→1,258.51
- 1日が休みの月の平均(1月除く)→1,095.47
- 1月の平均→1,438.34
- 1日,2日が休みの月の平均(1月除く)
→1,482.95

登り百日、下げ十日

- 相場が下降局面に入ったら、その下げ足は速い
- 上げ相場は、物色買いと利食い売りの繰り返しの中で、水準を切り上げていくため上げるためには時間が掛かる。
- 人気も熱を帯びてくるが、信用取引の買いが残っている。つまり、「売り予備軍」をかかえているので、不測の悪材料で、鋭角的に下げるケースが多い。

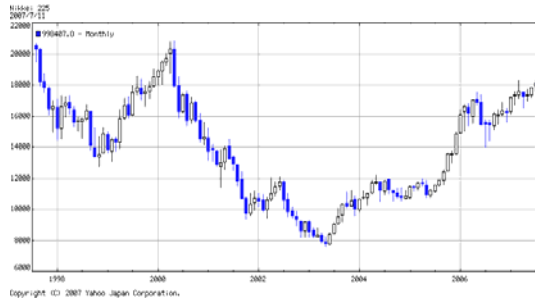
プロミス株価



山高ければ谷深し

- 相場は暴騰することもあるが、つねに反落する危険もはらんでいる
- 上げ相場が高ければ高いほど、下げ幅もきついことを示す格言。

■ 日経平均

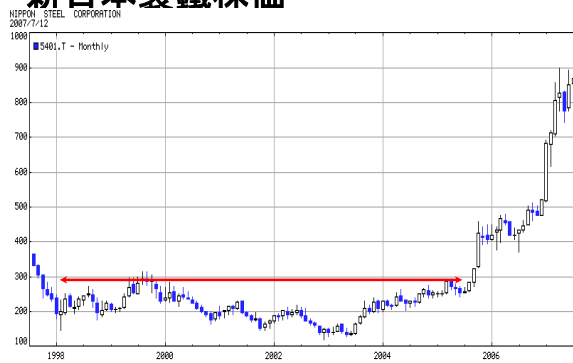


Copyright (C) 2007 Yahoo Japan Corporation.

新値にはだまってつけ

- 低迷を続けていた株は、上値に買いのシコリがなく、上に放たれるにはそれなりの理由がある上放れるにはそれなりの理由がある。
- 新値につけという格言には、もちあい圏にあった株価が、下値支持線を切って、新安値をつけた場合は売れ、という意味もある

■ 新日本製鐵株価



Copyright (C) 2007 Yahoo Japan Corporation.

■ NTT株価



Copyright (C) 2007 Yahoo Japan Corporation.

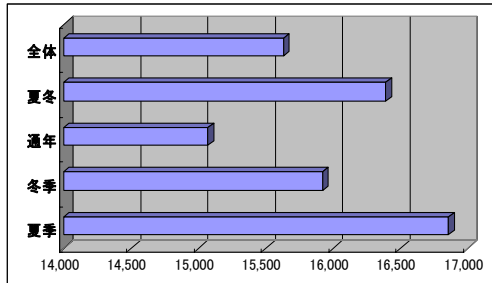
株式投資のアノマリー

- アノマリーとは
 - ジンクス、迷信のこと
 - 科学的根拠が全くないが昔から広く知られている
 - 理論的根拠がはっきりしていない株価の変動を経験的にまとめたもの

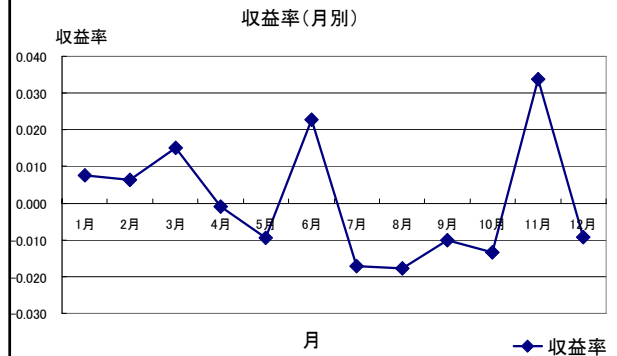
オリンピックと株価の関係

- オリンピックがある年は株価が高くなると言われている。よってオリンピックを夏季と冬季にわけて平均を出し、オリンピックがない年との比較を行う。
- データは1992年～2006年の14年間

オリンピックと通年の株価比較



月別収益率(月別)



月でみた株式投資のアノマリー

- 「1月の株高」
 - 前年12月が節税のための損失確定売りが多い
→ 比較的株価は安くなった状態から始まる
 - 底をついた1月は買いのシーズン
- 「2月上旬の節分天井」
 - 株高になる
 - 理由は不明

月でみた株式投資のアノマリー

- 「3月下旬の彼岸底」「決算対策相場」
 - 決算の企業が多い
→ 決算対策の売りが多い時期
- 「4月の株高」「新年度相場」
 - 新年度に入るため、3月から一転、株高になりやすい

月でみた株式投資のアノマリー

- 5月「鯉のぼりをおろしたら、株は売り」
 - GW前までは安くなりやすく、GWから夏に向けては株高
- 6月
 - 夏のボーナスの時期なので、個人投資家の資金が流入するため株高に向かう

月でみた株式投資のアノマリー

- 7月「サマーラリー」
 - 「夏は開放的になるから」などの理由で、株高
- 8月「お盆の閑散相場」
 - 薄商いになり、乱高下しやすい

月でみた株式投資のアノマリー

- 「9月下旬の彼岸底」「決算対策相場」
 - 中間決算の企業が多い
 - 下旬に売りのピーク
 - 株高にも限りがある
- 10月「稲穂相場」
 - 9月の中間決算売りが落ち着いてきてはいるが、上値は重い

月でみた株式投資のアノマリー

- 11月「ヘッジファンド相場」
 - 中間決算の発表が多い月
 - 業績の修正で、株価が上下しやすくなっている
 - 近年の企業業績は、会社側が保守的に予測することが多いため、期中の上方修正が多いことを考えると、株高になりやすい
 - ヘッジファンドの決算により乱高下することもある

月でみた株式投資のアノマリー

- 「12月の株安」「餅つき相場」
 - 節税対策のための損失確定売りがあり、株安になることが多い
 - 冬のボーナスがあるので、下値は固い

参考資料

- FP総研 知っておきたい資産運用
 - <http://www.fpsoken.co.jp/>
- ヤフーファイナンス
 - <http://quote.yahoo.co.jp/>
- 株式格言
 - <http://www.ipc-tokai.or.jp/~fukuryu/zatugaku/kakugen.htm>